

コミキャン高岡理事長

“新年度の抱負を語る”

4月から新年度に入り
ました。
前年の令和7年度はほぼ
予算通りの結果が出まし
た。
ひとえに、仲間の協力、
スタッフの努力、応援団
の尽力、そして時の運等
・・・前向きな方向での
エネルギーの結集に感
謝の言葉しかありません。

今年度、令和8年度のコミ
ユニティキャンパスは
今後の計画として、
新規に就労継続B型「ウ
ノアオトロ」、グループ
ホーム「ナツメ」、商店
街の中のリト1とお隣に
「プラン」等の開設を目
指し、車のドライブコー
ナー設置、摂津コミキャ
ンの運営が軌道に乗る、
等々
地域で生きる仲間の居場
所づくりとそれを支える
へ法人の仕組み造り、
に邁進する所存です。



コミキャン理事長
高岡 善弘

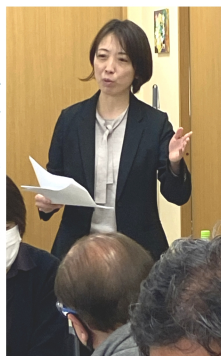
非血縁のネットワー
ク
の
共同
体
と
し
て
の
コ
ミ
ユ
ニ
テ
ィ
キ
ャ
ン
パ
ス
が
、
資
本
の
自
己
増
殖
の
世
界
の
中
で
「
流
動
性
や
多
様
性
」
を
維
持
し
、
「
相
互
扶
助
」
と
「
学
び
」
と
「
居
場
所
」
を
組
み
立
て
る
事
が
出
来
れ
ば
仲
間
や
ス
タ
フ
が
こ
の
社
会
の
周
辺
部
で
生
き
残
る
こ
と
が
可
能
か
と
考
え
ま
す。
「
皆
で
知
恵
を
出
し
合
い
共
に

障がい者虐待防止委員会・身体拘束運営適正化委員会 新たな支援を考える、事例検討と意見交換会



令和8年2月10日、障
がい者虐待防止・身体拘束運
営適正化委員会を法人内参
考事例を交えたグループディ
スカッションで進め、討
論
や
意
見
交
換
を
全
体
で
共
有
し
、
表
の
内
容
を
全
体
で
共
有
し
、

▼オプザーバーの東弁護士
(つぐみ法律事務所)には
各テーブルの討論に加わら
ず、課題検討のヒントをい
ただいていただきます。▼各グル
ープの発表には、これまでと
違った支援のヒントが数多
くあり、東弁護士からは全
体としての講評のなかで、
「支援する職員の仕事は、
利用者の生活や就労支援で
なく、再犯防止を目標とし
なくてもいいんです」など、



▼事例検討を進めるにあ
り、触法発達障がい者Aさ
んの基本情報が説明されま
した。コミユニティキャン
パスに至るまでの家庭環境・
成育歴やこれまでの行動歴
そして現在の状況を聞きテイ
ス・スカッションが展開されま
す。
▼現場で役立てることにし
ています。また管理職の研
修をそれぞれ自身の作業所
に持ち帰り、一般職員にも、
かみ砕いた研修をすすめ、
新しい支援の方法を考える
ヒントにしています。

現場で支援する職員にとっ
て大きな勇気づけとなる一
言が印象的でした。職員か
ら「自分たちの仕事の役割
が明らかになった」「支援の役割
が明らかになった」「コミ
ユニティキャンパスでは虐待
防止や身体拘束などについて
定期的に会議・研修を
進め、法人内の難題事例を参
考に、担当する職員のみな
さんに、担当者で考える事
で多様なケースに対応でき
る学びを深め、支援力を高
めています。
(研修委員会・柳谷)



第156号

大阪市東淀川区
上新庄2-1-40
TEL : 06-4862-6057
<http://www.communitycampus.jp/>

コミキャン編集委員会
発行者
社会福祉法人
コミュニティキャンパス

コミキャン新聞に掲載された情
報(写真等)の著作権・肖像権は
全て当該メンバーさんの保護者
の方及び社会福祉法人コミュ
ニティキャンパスに帰属し、無
断でこれを複製、利用すること
を固く禁じます。

●お願い

この広報紙は、福祉事
業の一環としてメンバー
(利用者)が地域の皆様
に手配りさせていただい
ています。どうぞご理
解いただきますよう、お
願い申し上げます。

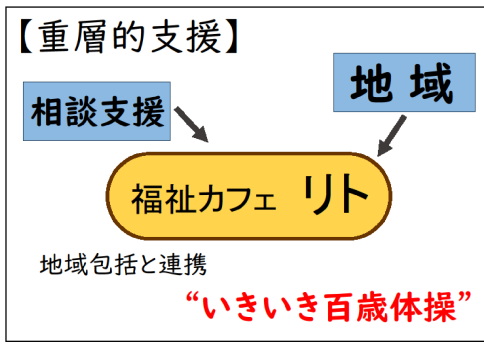


“会長室便り” ①

： 牧野篤子コミキャン会長の
「話しておきたいこと」をまとめています

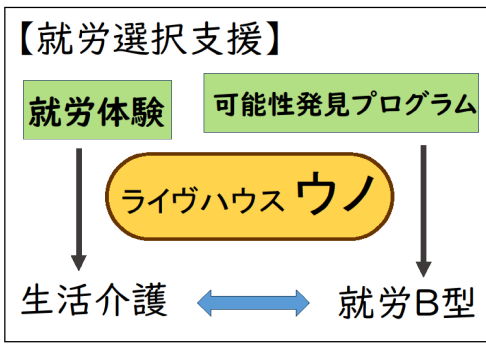
令和8年度が始まりました。

今年度は新しい試みとして、メンバーさんの就労を応援する取り組みに挑戦しています。それは「生活介護」と「B型事業所」の「就労支援」に加えて「就労支援プログラム」(可能性発見プログラム)や「重層的支援」の取り組みも始めています。



試みのもとになった計画は、令和4年の法人事業計画から、これまでに何度も具現化に努めてきています。就労総合センターの生活介護では「ライブラリー」

ウズ・ウノ・アオトロー月例定期ライブ開催を軌道に乗せ、地域の皆さんと交流を深め、メンバーさんの「就労選択支援」(可能性発見プログラム)も展開し始めています。



「このゆびとまれ」を卒業したメンバーさんの生活介護は、清掃チームC.C. (コミキャンクリーンセンター)を組織し、専門的な知識も学び、社会実装可能な訓練を始めています。吹上町コミキャンの生活介護は「ライブラリー」(資源リサイクルセンター)を、新聞古紙やアルミ缶を回収する連携を模

索しています。▼摂津コミキャンや西河原橋の内コミキャン、ポコポコ亭では積極的に地域での外販(イベント会場販売等)を繰り広げ、各地の皆さんに喜ばれています。この活動が地域の理解や交流に貢献し、社会福祉への関心を高めていると思います。▼お店就労体験では商店街に設置した「福祉カフェ」も、生活介護とB型の「おもしろ亭サロン」のちよつと中間のメンバーさんを対象に、接客の体験などを試みています。また地域の若年より対象に「いきいき百歳体操」を毎週開催するなど、継続して地域に根付く活動を続けています。▼このように新しい取り組みにより、地域社会との情報共有や連携など相互理解を通して、共生社会(ともに生きる)実現の一端を担えるコミキャンであること、インクルージョン社会(コミュニティ)を目指すこと、それが私たちに課せられたミッションであること、あらためて感じていただきます。(会長室)

※「重層的支援」とは、一つの制度や事業所だけでは対応しきれない複雑な課題に対して、分野をまたいで重なり合いながら支援する仕組みのこと。

※「就労選択支援」とは、本人に合った「働き方」を一緒に考え、適切な就労先や支援につなぐための支援のこと。

コミキャンの生活訓練 このゆびとまれ 卒業式 2026年3月31日



今年度も、司会を務める中で、緊張感とともに卒業生を送り出す喜びを強く感じながら、その時を迎えました。▼当日は雨が降る配りかもしれないと心配されていましたが、まるで卒業生の門出を祝つたかのよう、天候にも恵まれ、穏やかな空の下で式を迎えることができました。▼開式の言葉とともに会場は立ち上がり、静かに包まれ、特別な時間が静かに流れ始めました。その後、高岡理事長より温かく心強い祝辞を頂き、これから歩みを後押しするお話しに会場は自然と引き込まれて行きました。続いて行われた答辞では、卒業生がこれまでの経験や仲間への思い、そして1年生への応援メッセージ等を伝える姿、積み重ねてきた時間の重みや想いが言葉に込められており、胸を打たれる場面となりました。後半には、これまでの日々を振り返る2年間の思い出のスライドショーが上映されました。



日常の何気ない場面や、仲間と笑い合う瞬間が映し出されるたびに、会場からは自然と笑顔が広がり、感動の涙で隣り泣く声も沢山こえて来ました。▼閉式を迎える頃には、達成感とともに別れを惜しむ気持ちも広がっていました。最後は、あたたかな拍手に包まれながら、RADWIMPSの「正解」の楽曲とともに、卒業生が一步前へと進みながら退場し、式は締めくくられました。式の後も、卒業生たちは仲間やスタッフと笑顔で言葉や写真を交わし、「またね」と写真を撮る姿が印象的でした。別れの中にも、これからへとつながる温かさを感じられる時間となりました。新たな一歩を踏み出す皆さんのこれからが、明るく、そして希望に満ちたものとなることを心より願っています。心に残る、温かい卒業式となりました。



(このゆびとまれ・原)

福祉人材の育成と開拓

“炊き出しボランティア”～大学生の卒論制作に協力～

▼令和7年11月から年明けにかけて、毎週土曜日に、大阪府西成区あいりん地区の三好公園横で社会福祉法人「コミュニティキャンパス」が地域で暮らす路上生活者対象に「慈善炊き出し」を実施。三好公園周辺で暮らすホームレスの方々にひとときの「ホッカリ」を提供しています。

運営には、学生ボランティアを含み、計5名の参加、地域福祉の基礎を体験



▼今回の活動に参加した学生さん(近畿大学生)が卒業研究の論文テーマに採用。西成区における炊き出し文化と貧困ビジネス」と題して研究を進められました。



を目標としています。

論文ボランティアについては、このボランティアに参加するなかで、集まった皆さんへの聞き取りから様々な貧困ビジネスの実態が見えてきて、そこに「フォーカス」したところです。論文執筆作業の中で社会福祉に対するより一層の理解が深まることを期待しています。



▼コミュニティキャンパスではこれまで、障がい福祉や社会福祉全般について啓発と人材育成とを兼ねて中学校

高専等の学校で、専門的・実践的な学習を積み重ね、社会福祉の現場で活躍できるように、大卒の学生も積極的に参加し、協力を得て、福祉の発展に貢献しています。

▼当法人では、大学・専門学校等の資格・教員・実習生など、大から小学校まで、是非お問い合せください。(コミキャン理事長・高岡)

“型破りアート展” グランプリ!

西河原コミキャンのメンバーさん



見事グランプリ賞に選ばれた2名の方の個展が茨木市立ギャラリーにて行われ、西河原コミュニティキャンパスからはメンバーの三好圭佑さん



の作品が選ばれ、2026年1月22日〜27日の間、10点の作品が展示されました。

▼2024年12月に茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」で開催された、「型破りなアート展2024」。このアート展は「文化芸術から障がい福祉を観る」をテーマに、福祉啓発のツールとして用いられる展示会ではなく、作品や作家、そのストーリーにスポットを当て、フレームに囚われた表現ではなく、ありのままの表現を評価する展覧会。

▼また、その期間中の1月24日(土)には茨木市立ギャラリー内でトークセッションが行われ、当事業所からは橋の内コミュニティキャンパスでいつも絵画を教え下さっている甲斐彰先生と絵画担当スタッフが参加。三好圭佑さんも客席から参加され、緊張しながらも、作品についての質問ではしっかりと答えてられました!(西河原コミキャン・川村)

